

チアジニルの公表文献に関する報告書

日本農薬株式会社

提出日：令和5年3月17日

訂正日：令和5年7月6日

緒言

- | | |
|--------------|---|
| ① 調査名： | チアジニルの公表文献調査 |
| ② 調査委託者： | 名称 日本農薬株式会社
住所 東京都中央区京橋 1 丁目 1 9 番 8 号 (〒104-8386) |
| ③ 調査者： | <div style="background-color: black; width: 100px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 350px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 70px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 400px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 100px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> |
| ④ 調査目的： | 農薬チアジニルの再評価申請にあたり農薬取締法が求める公表文献を収集する。 |
| ⑤ 調査方法および指針： | <p>以下の指針に準拠してシステマティックレビューによる文献検索を実施した。検索にあたり複数のデータベースを横断的に検索可能な電子ジャーナルプラットフォームとして Web of Science (Core Collection) および J-Stage を利用した。</p> <p>公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日、農業資材審議会農薬分科会決定）</p> <p>本報告書において、以下に記載されるガイドラインとは上記を指す。</p> |
| ⑥ 調査報告書の作成： | <div style="background-color: black; width: 70px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 350px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 50px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 50px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 70px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> <div style="background-color: black; width: 220px; height: 1.2em; margin-bottom: 2px;"></div> |

目次

表紙	1
緒言	2
目次	3
1. 報告の概要	4
2. 検索に用いたデータベース、検索日及び検索に用いたデータベースに関する情報	4
3. 検索に使用したキーワード、検索の条件	5
4. 評価目的との適合性評価（第 1 段階）及び信頼性評価で設定した判断基準	6
5. 検索結果のまとめ	7
5.1 Web of Science（Core Collection）を検索した結果のまとめ	7
5.2 J-Stage を検索した結果のまとめ	7
5.3 すべてのデータベースの検索結果を統合したまとめ	8
5.4 評価目的との適合性評価（第 1 段階）の結果のまとめ	8
5.5 適合性評価第 2 段階で「適合性あり」とされた文献と分類結果	8
6. 適合性評価の第 2 段階で「適合しない」と判断した論文リストとその理由	8
7. 適合性評価の第 2 段階で「区分 a」～「区分 c」へ分類された論文リストとその理由	9
8. 適合性評価の第 2 段階で「区分 a」と判断した論文リスト及び信頼性を評価した結果	9
9. EFSA、USEPA、JMPR の評価に関する情報	9
参考	9
Supplement 1. Web of Science（Core Collection）においてチアジニルの 8 つの英名で ヒットした論文	10
Supplement 2. J-Stage においてチアジニルの 13 の日英名でヒットした論文	12
Supplement 3. Web of Science（Core Collection）と J-Stage で得られた結果の統合と 評価目的との適合性評価（第 1 段階）の結果及び判断理由	20
Appendix：データベースを用いた検索結果の概略	i
Web of Science（Core Collection）検索	1~27
J-Stage 検索	28-102

1. 報告の概要

本調査ではチアジニルの公表文献を Web of Science (Core Collection) 並びに J-Stage を用いて検索した。

Web of Science (Core Collection) ではチアジニルの 8 英名 (一般名、IUPAC/CAS 名、CAS 番号、試験名) について 2007 年 7 月 4 日～2022 年 9 月 6 日 (検索日) を対象にすべてのテキストフィールド¹を検索して、13 件の論文を検出した。

J-Stage ではチアジニルの 13 の日英名 (一般名、商品名、IUPAC/CAS 名、CAS 番号、試験名、製剤名) について 2007 年～2022 年を対象に全文²を検索して、40 件の論文を検出した。

Web of Science (Core Collection) と J-Stage で検出された論文総数は 53 件であったが、重複を除いた論文数は 50 件であった。これら 50 件について表題及び概要に基づいて評価目的との適合性を検査し、すべての論文が評価目的に「適合しない」と判断した。

海外の評価機関による評価については、欧州食品安全機関 (EFSA)、米国環境保護庁 (USEPA) FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議 (JMPR) のいずれの機関においても評価は行われていなかった。

以上のように、評価に資するチアジニルに関する公表文献は見出されなかった。

2. 検索に用いたデータベース、検索日及び検索に用いたデータベースに関する情報

本調査では Web of Science (Core Collection) 並びに J-Stage を用いて公表論文を検索した。データベースの特徴、収載範囲・文献数、更新頻度、検索日、検索対象期間を表 1 に示す。

表 1. 文献検索に用いたデータベースの概要

データベース名	データベースの特徴、 収集分野等	収載範囲・ 文献検索時の 文献数	更新 頻度	検索日	検索 対象期間
Web of Science (Core Collection) *	Clarivate Analytics 社が提供する世界最大の研究情報プラットフォームであり、科学技術、社会科学、人文科学などの 250 を超える専門分野の 21,000 誌を超えるジャーナル、会議録、書籍のデータを公開している。	2002 年 ～2022 年 43,057,525 件 (検索日時点)	週 5 回	2022 年 9 月 6 日	2007 年 7 月 4 日 ～ 2022 年 9 月 6 日
J-Stage	科学技術振興機構 (JST) が運営する電子ジャーナルのプラットフォームであり、国内から発表される科学技術分野 (人文科学・社会科学を含む) の 1,500 を超える発行機関が 3,000 誌以上のジャーナルや会議録等の刊行物を公開している。	1875 年 ～2022 年 5,449,756 件 (2022 年 9 月 6 日時点)	各発行 機関が 設定し た日	2022 年 9 月 6 日	2007 年 ～ 2022 年

*Web of Science (Core Collection) はチアジニルの検索対象期間をカバーする 2002 年以降のサービスを契約し、その範囲に収載された論文件数を記載した。データベースの更新日は 2022 年 9 月 3 日であった。

Web of Science Core Collection では以下の 8 つのデータベースで検索した。

1. Science Citation Index Expanded (SCI-EXPANDED)
2. Social Sciences Citation Index (SSCI)
3. Arts & Humanities Citation Index (AHCI)
4. Conference Proceedings Citation Index – Science (CPCI-S)
5. Conference Proceedings Citation Index – Social Science & Humanities (CPCI-SSH)
6. Book Citation Index – Science (BKCI-S)
7. Book Citation Index – Social Sciences & Humanities (BKCI-SSH)
8. Emerging Sources Citation Index (ESCI)

¹ Web of Science (Core Collection) で用いられる用語：論文タイトル、抄録、キーワード等のテキストで記載された全フィールドを指す。

² J-Stage で用いられる用語：論文タイトル、抄録、キーワード、論文本文等のテキストで記載されたフィールドを指す。

3. 検索に使用したキーワード、検索の条件

本調査ではキーワードとしてチアジニルに関する複数の名称について検索して公開された論文を収集した。すなわち、Web of Science (Core Collection) では8英名（一般名、IUPAC/CAS名、CAS番号、試験名）について、すべてのテキストフィールドを対象にして「OR」検索を行った。J-Stageでは13の日英の名称（一般名、IUPAC/CAS名、CAS番号、商品名、試験名、代表的製剤名）について、全文を対象にして「OR」検索を行った。

検索にあたって、Web of Science (Core Collection) では完全一致検索、J-Stageではフレーズ（検索単語をダブルクォーテーション"で囲う）検索を行った。Web of Science (Core Collection) では英語もしくは日本語で記載された原著並びに解説を対象とし、J-Stageでは査読ありの条件でジャーナル並びに解説誌・一般情報誌を対象とした。検索対象期間はWeb of Science (Core Collection) では論文の出版日を2007年7月4日～検索日（2022年9月6日）とし、J-Stageは年単位でしか設定できないため論文の発行年を2007年～2022年とした。

表2. 検索に用いたキーワード：有効成分チアジニル

データベース	Web of Science (Core Collection)	J-Stage
一般名	tiadinil OR	チアジニル OR tiadinil OR
IUPAC/CAS名	3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide OR N-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide OR	3'-クロロ-4,4'-ジメチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサニリド OR 3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide OR N-(3-クロロ-4-メチルフェニル)-4-メチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサミド OR N-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide OR
CAS番号	223580-51-6 OR	223580-51-6 OR
商品名	NA	ブイゲット® OR
試験名	NNF-9850 OR NNF-1081 OR NNF-1083 OR SV-89601	NNF-9850 OR NNF-1081 OR NNF-1083 OR SV-89601 OR
代表的製剤名	NA	ブイゲットパディート粒剤

NA：該当するデータなし

4. 評価目的との適合性評価（第1段階）及び信頼性評価で設定した判断基準

対象農薬名の検索で収集し、Web of Science（Core Collection）と J-Stage 間の重複を除いた全ての論文（計 50 件）について評価目的との適合性評価を実施した。判断基準を表 3 に示した。

なお、第 1 段階で「適合する」と判断された論文がなかったことから、第 2 段階における判断基準並びに結果の信頼性に基づく分類で設定した判断基準は示さなかった。

表 3. 評価目的との適合性（第 1 段階）で設定した判断基準（ガイドラインに基づく）

第 1 段階：文献の表題及び概要に基づく適合性評価

第 1 段階として、文献の表題及び要約に基づき、下記の①から⑮に該当するものは明らかに評価の目的と適合しない文献と見なした。

- ① 当該農薬と関係しない論文（当該農薬の代替剤等）
- ② 政策、社会、経済分析に関する論文
- ③ 農産物等の生産、流通に関する論文
- ④ 薬効、薬害、物理的・化学的性状に関する論文
- ⑤ 分析法やその開発に関する論文
- ⑥ 新規合成法や基礎化学の観点で記載された論文
- ⑦ 特許関連文献
- ⑧ リスク評価をする上で十分なデータや情報を含まない学会発表等の概要や総説、成書
- ⑨ リスク評価に使用できる新規のデータが提示されていない意見書
- ⑩ 科学論文や規制についての総説を含む二次情報において、当該文献が参照する一次資料（原著）の確認ができないもの
- ⑪ 一般的な農薬の暴露に関する論文（当該農薬に限定せず、広範囲の農薬について記載されたもの）
- ⑫ 異なる有効成分に由来する混合製剤の毒性に関する論文
- ⑬ ヒトに対する毒性、農作物及び畜産物への残留、生活環境動植物及び家畜に対する毒性並びに環境動態の 4 分野に関係しない論文
- ⑭ 日本で登録されている処方以外の製剤に関する論文
- ⑮ コンピュータシミュレーション等を用いたドライラボのみの論文

5. 検索結果のまとめ

5.1 Web of Science (Core Collection) を検索した結果のまとめ

チアジニルの 8 英名について検索し、検出された個々の論文を Supplement 1 に、まとめを表 4 に示す。tiadinil で 13 論文、*N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide で 2 論文が検出された。その他の 6 名称では検出されなかった。tiadinil OR *N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide の組合せでは、tiadinil と同じ 13 論文が検出された。*N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide で検出された論文は全て tiadinil で検出される論文に含まれていた。

表 4. Web of Science (Core Collection) においてチアジニルの 8 英名でヒットした論文数

名称	論文数
tiadinil	13
<i>N</i> -(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide	2
3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide	0
223580-51-6	0
NNF-9850	0
NNF-1081	0
NNF-1083	0
SV-89601	0
tiadinil OR <i>N</i> -(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide	13

5.2 J-Stage を検索した結果のまとめ

チアジニルの 13 の日英名について検索し、検出された個々の論文を Supplement 2 に、まとめを表 5 に示す。チアジニルで 30 論文、tiadinil で 24 論文、ブイゲット®で 8 論文、*N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide で 2 論文、223580-51-6 で 1 論文が検出された。その他の 8 名称では検出されなかった。チアジニル OR tiadinil の組合せで 50 論文が、この組合せにブイゲット®を加えると 51 論文が検出された。さらに、*N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide と 223580-51-6 を組合せても、チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット®と同じ 51 論文が検出された。このチアジニル OR tiadinil OR ブイゲット®の組合せによって、チアジニルに関する全ての論文が検出できた。

J-Stage では「査読あり、ジャーナル、解説誌・一般情報誌」に限定して検索しても、学会要旨等の論文がヒットする。チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット®で検出された 51 論文について確認すると、11 件が学会要旨等の論文であった (Supplement 2、表を見やすくするために網掛けした)。一方、Yasuda M の論文「Regulation mechanisms of systemic acquired resistance induced by plant activators」(論文番号、JS2) は同じ雑誌の別ページ (p.291-296) に掲載された原著論文「植物の全身獲得抵抗性誘導剤の作用機構に関する研究」(学会賞、奨励賞受賞論文) の英文要旨であるが、「日本語の原著論文参照」となっているため原著論文として扱った。以上より、J-Stage においてチアジニルの 13 の日英名で 40 原著論文が検出された。

表 5. J-Stage においてチアジニルの 13 の日英名でヒットした論文数

名称	論文数
チアジニル	30
tiadinil	24
ブイゲット®	8
3'-クロロ-4,4'-ジメチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサニリド	0
3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide	0
<i>N</i> -(3-クロロ-4-メチルフェニル)-4-メチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサミド	0
<i>N</i> -(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide	2

223580-51-6	1
NNF-9850	0
NNF-1081	0
NNF-1083	0
SV-89601	0
ブイゲットパディート粒剤	0
チアジニル OR tiadinil	50
チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット®	51
チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット® OR N-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide	51
チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット® OR N-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide OR 223580-51-6	51

5.3 すべてのデータベースの検索結果を統合したまとめ

Web of Science (Core Collection) と J-Stage で得られた結果を統合した。個々の結果を Supplement 3、まとめを表 6 に示す。Web of Science (Core Collection) と J-Stage で得られた論文総数は 53 件であったが、3 件の重複があったため、重複を除いた論文数は 50 件であった。

表 6. すべてのデータベースの検索結果を統合したまとめ

	論文数
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数 [Web of Science (Core Collection) + J-Stage]	53 (13 + 40)
データベース間の重複を除いた総論文数	50

5.4 評価目的との適合性評価（第 1 段階）の結果のまとめ

すべてのデータベースの検索結果を統合した結果について、評価目的との適合性を評価した。個々の結果を Supplement 3 に、まとめを表 7 に示す。ほとんどの論文が「薬効に関する論文」であり、その他は「ドライラボに関する論文」、「当該農薬と関係しない論文」、「分析法に関する論文」、「新規データが提示されていない論文」であった。これらより、全ての論文が評価目的に「適合しない」と判断した。

第 1 段階で「適合する」と判断された論文がなかったことから、第 2 段階における適合性評価は行わなかった。

表 7. 評価目的との適合性評価（第 1 段階）の結果のまとめ

総論文数 ¹⁾	第 1 段階（論文数）	
	適合性なし	それ以外
50	50	0

¹⁾データベース間の重複を除いた数

5.5 適合性評価第 2 段階で「適合性あり」とされた文献と分類結果

該当なし

6. 適合性評価の第 2 段階で「適合しない」と判断した論文リストとその理由

該当なし

7. 適合性評価の第2段階で「区分 a」～「区分 c」へ分類された論文リストとその理由

該当なし

8. 適合性評価の第2段階で「区分 a」と判断した論文リスト及び信頼性を評価した結果

該当なし

9. EFSA、USEPA、JMPR の評価に関する情報

欧州食品安全機関（EFSA、<https://www.efsa.europa.eu/en/search?s=>）：評価なし

米国環境保護庁（USEPA、<https://www.epa.gov/>）：評価なし

FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議（JMPR、
<https://www.fao.org/agriculture/crops/thematic-sitemap/theme/pests/jmpr/en/>）：評価なし

参考

- Web of Science（Core Collection）

<https://clarivate.com/ja/solutions/web-of-science-core-collection/>

- J-Stage

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

Supplement 1. Web of Science (Core Collection) においてチアジニルの 8 つの英名でヒットした論文

論文 番号	著者	出版 年	論文表題	掲載誌名、巻(号): ページ、DOI Link	言語	種類 ^B	検 索 式 1 (13)	検 索 式 2 (0)	検 索 式 3 (2)	検 索 式 4 (0)	検 索 式 5 (0)	検 索 式 6 (0)	検 索 式 7 (0)	検 索 式 8 (0)	検 索 式 9 (13)
WOS1	Fan ZJ et al.	2009	Synthesis and Biological Activity Evaluation of 1,2,3-Thiadiazole Derivatives as Potential Elicitors with Highly Systemic Acquired Resistance	J. Agric. Food Chem. 57(10):4279-4286 https://doi.org/10.1021/jf8031364	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS2	Yoshida K et al.	2010	Induction of Disease Resistance in Tea (<i>Camellia sinensis</i> L.) by Plant Activators	Jarq - Jpn. Agric. Res. Q. 44(4):391-398 https://doi.org/10.6090/jarq.44.391	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS3 ^A	児玉浩宜	2011	日本農薬の原体製造におけるグリーンケミストリー	J. Pestic. Sci. 36(4):534-538 https://doi.org/10.1584/jpestics.W11-27	日本語	総説	○	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS4	Shimono M et al.	2012	Rice WRKY45 plays important roles in fungal and bacterial disease resistance	Mol. Plant Pathol. 13(1):83-94 https://doi.org/10.1111/j.1364-3703.2011.00732.x	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS5	Noutoshi Y et al.	2012	Isolation and characterization of the plant immune-priming compounds Imprimitin B3 and -B4, potentiators of disease resistance in <i>Arabidopsis thaliana</i>	Plant Signal. Behav. 7(12):1526-1528 https://doi.org/10.4161/psb.22138	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS6	Noutoshi Y et al.	2012	Novel Plant Immune-Priming Compounds Identified via High-Throughput Chemical Screening Target Salicylic Acid Glucosyltransferases in <i>Arabidopsis</i>	Plant Cell 24(9):3795-3804 https://doi.org/10.1105/tpc.112.098343	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS7	Maeda T and Ishiwari H	2012	Tiadinil, a plant activator of systemic acquired resistance, boosts the production of herbivore-induced plant volatiles that attract the predatory mite <i>Neoseiulus womersleyi</i> in the tea plant <i>Camellia sinensis</i>	Exp. Appl. Acarol. 58(3):247-258 https://doi.org/10.1007/s10493-012-9577-2	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS8	Pye MF et al.	2013	Induced resistance in tomato by SAR activators during predisposing salinity stress	Front. Plant Sci. 4 (Article no 116) https://doi.org/10.3389/fpls.2013.00116	英語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	○
WOS9	Chen XY et al.	2014	Determination of Tiadinil and Its Metabolite in Flue-Cured Tobacco	J. Chromatogr. Sci. 52(7):624-628 https://doi.org/10.1093/chromsci/bmt090	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	○

WOS10	Chang K et al.	2017	The discovery of new scaffold of plant activators: From salicylic acid to benzotriazole	Chin. Chem. Lett. 28(4):919-926 https://doi.org/10.1016/j.cclet.2017.02.004	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS11	Kouzai Y et al.	2018	Salicylic acid-dependent immunity contributes to resistance against Rhizoctonia solani, a necrotrophic fungal agent of sheath blight, in rice and Brachypodium distachyon	New Phytol. 217(2):771-783 https://doi.org/10.1111/nph.14849	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS12	Kimura N and Fukuchi A	2018	MBI-D resistance management of Pyricularia oryzae using an application program incorporating benomyl	J. Pestic. Sci. 43(1-2):33-35 https://doi.org/10.1584/jpestics.D17-064	英語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○
WOS13	Kefialew Y et al.	2018	Direct antifungal activity of tiadinil, a systemic acquired resistance inducer, and thymol formulations on Stagonosporopsis citrulli and control of watermelon gummy stem blight	J. Gen. Plant Pathol. 84(4):284-295 https://doi.org/10.1007/s10327-018-0783-6	英語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	—	○

チアジニルの 8 つの英名で検索して（検索式は以下に示す）、ヒットした論文を「○」で示す。表中の検索式の下括弧には各検索式でヒットした論文数を示す。

検索式

- 1 : tiadinil
- 2 : 3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide
- 3 : *N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide
- 4 : 223580-51-6
- 5 : NNF-9850
- 6 : NNF-1081
- 7 : NNF-1083
- 8 : SV-89601
- 9 : tiadinil OR *N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide

^A : Web of Science (Core Collection) では英語で記載されるが、原著に合わせて日本語表記に修正した。

^B : Web of Science (Core Collection) による原著、総説の区別。

Supplement 2. J-Stage においてチアジニルの 13 の日英名でヒットした論文

論文番号	著者	出版年	論文表題	掲載誌名、巻(号): ページ、DOI Link	言語	種 ^c 類	検索式 1 (30)	検索式 2 (24)	検索式 3 (8)	検索式 4 (0)	検索式 5 (0)	検索式 6 (0)	検索式 7 (2)	検索式 8 (1)	検索式 9 (0)	検索式 10 (0)	検索式 11 (0)	検索式 12 (0)	検索式 13 (0)	検索式 14 (50)	検索式 15 (51)	検索式 16 (51)	検索式 17 (51)
JS1	佐々木豊等	2007	仮想空間におけるイネいもち病徴の検知手法の検討	農業情報研究 16(2): 60-65 https://doi.org/10.3173/air.16.60	日本語	原著	—	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○
JS2	Yasuda M	2007	Regulation mechanisms of systemic acquired resistance induced by plant activators	J. Pestic. Sci. 32(3): 281-282 https://doi.org/10.1584/jpestics.32.281	英語	原著	—	○	—	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS3	岩本 豊, 長田 靖之	2007	MBI-D 剤に替わるイネいもち病育苗箱処理剤の選定	関西病虫害研究会報 49: 19-21 https://doi.org/10.4165/kapps.49.19	日本語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS4	安田美智子	2007	植物の全身獲得抵抗性誘導剤の作用機構に関する研究	J. Pestic. Sci. 32(3): 291-296 https://doi.org/10.1584/jpestics.32.291	日本語	原著	—	○	○	—	—	—	○	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS5	鳴坂義弘等	2008	ハクサイ炭疽病および黒すす病に対するプラントアクティベーターの効果と影響	J. Pestic. Sci. 33(2): 196-200 https://doi.org/10.1584/jpestics.33.196	日本語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
—A	尾松直志	2009	第 77 回九州病害虫研究会講演要旨 抵抗性誘導型薬剤を用いたイチゴ炭疽病の防除効果	九州病害虫研究会報 55: 185 https://doi.org/10.4241/kyubyoc.hu.55.182	日本語	要旨	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS6	大平辰朗	2009	様々な情報に対する植物の応答—信号化学物質の機能について—	におい・かおり環境学会誌 40(3): 140-151 https://doi.org/10.2171/jao.40.140	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS7	安田美智子, 仲下英雄	2009	植物の全身獲得抵抗性を制御する植物ホルモンネットワーク	化学と生物 47(8): 553-559 https://doi.org/10.1271/kagakuseibutsu.47.553 https://doi.org/10.1271/kaga	日本語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○

				kutoseibutsu. 47.553																			
JS8	仲下英雄 等	2009	全身獲得抵抗性の 環境ストレスによる 抑制機構—抵抗 性誘導の効果的利 用技術の開発へ向 けて	J. Pestic. Sci. 34(4): 350-353 https://doi.org/10.1584/jpestics.34.350	日本語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	
JS9	高辻博志	2009	イネの誘導抵抗性 の分子機構—サリ チル酸シグナル伝 達経路の解明とそ の利用に向けて	J. Pestic. Sci. 34(4): 330-334 https://doi.org/10.1584/jpestics.34.330	日本語	原著	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	
JS10	樋口康一, 尾松直志	2010	チアジニル粒剤の イチゴ炭疽病 (<i>Glomerella cingulata</i>) に対する防除効果	九州病害虫研 究会報 56: 9- 12 https://doi.org/10.4241/kyubyocu.56.9	日本語	原著	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	
—A	樋口康一, 尾松直志	2010	第 79 回九州病害 虫研究会講演要旨 チアジニル粒剤を 用いたイチゴ炭疽 病の育苗中におけ る防除効果	九州病害虫研 究会報 56: 113-114 https://doi.org/10.4241/kyubyocu.56.110	日本語	要旨	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	
JS11	Yoshida K et al.	2010	Induction of Disease Resistance in Tea (<i>Camellia sinensis</i> L.) by Plant Activators	Japan Agricultural Research Quarterly 44(4): 391-398 https://doi.org/10.6090/jarq.44.391	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	
JS12	Takatsuji H et al,	2010	Salicylic Acid Signaling Pathway in Rice and the Potential Applications of Its Regulators	Japan Agricultural Research Quarterly 44(3): 217-223 https://doi.org/10.6090/jarq.44.217	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	
—A	Tsubata K	2010	第 1 回日中韓農薬 科学ワークショップ 全プログラム Tiadinil: A Plant Activator for Rice Disease Control—	J. Pestic. Sci. 35(2): 200 https://doi.org/10.1584/jpestics.35.200	英語	要旨	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○	

			Discovery and Biological Profile																				
—	王敬銘, 津幡健治	2010	Invited Lectures: Session 1 Pesticides Discovery	J. Pestic. Sci. 35(2): 186-187 https://doi.org/10.1584/jpestics.35.186	日本語	要旨	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS13	鳴坂義弘等	2010	プラントアクティベーターによる植物免疫の活性化と化学遺伝学への利用	化学と生物 48(10): 706-712 https://doi.org/10.1271/kagakutoseibutsu.48.706	日本語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS14	児玉浩宜	2011	日本農薬の原体製造におけるグリーンケミストリー	J. Pestic. Sci. 36(4): 534-538 https://doi.org/10.1584/jpestics.W11-27	日本語	原著	○	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS15	芳野未央子等	2012	キュウリに病害抵抗性を誘導する熱ショック処理方法の改良と処理装置の試作	園芸学研究 11(1): 121-126 https://doi.org/10.2503/hrj.11.121	日本語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
—	山本出等	2012	報告記事 第 17 回国際植物保護会議に参加して	J. Pestic. Sci. 37(1): 112-121 https://doi.org/10.1584/jpestics.W11-44	日本語	学会報告	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
—A	小杉正樹等	2012	第 34 回農薬残留分析研究会報告記事 LC-MS/MS を用いた飼料中のチアジニル残留分析法の検討	J. Pestic. Sci. 37(2): 231 https://doi.org/10.1584/jpestics.W12-03	日本語	要旨	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
—A	Hua X 等	2013	第 5 回環太平洋農薬科学会議報告記事 Studies on the systemic acquired resistance based on novel lead derivation and their biological activity	日本農薬学会誌 38 (1): 83 https://doi.org/10.1584/jpestics.W12-43	日本語	要旨	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○

—	梅津憲治等	2013	第1回中国植物保護学会・国際植物保護科学会合同国際シンポジウム—イネ病害虫の新たな防除管理戦略—報告記事	日本農薬学会誌 38(1): 40-43 https://doi.org/10.1584/jpestics.W12-40	日本語	要旨	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS16	藤井直哉, 佐山玲	2013	水稻苗の葉いもちに対するトリシクラゾール水和剤の低濃度処理及び各種箱施用剤の防除効果	北日本病害虫研究会報 2013(64): 11-14 https://doi.org/10.11455/kitanihon.2013.64_11	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS17	廣岡卓, 石井英夫	2014	植物病害の薬剤防除	日本植物病理学会報 80(100th Anniversary号): S172-S178 https://doi.org/10.3186/jphytopath.80.S172	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS18	小林憲弘等	2014	水道水中の農薬類のLC/MS/MS一斉分析法の開発	環境科学会誌 27(1): 3-19 https://doi.org/10.11353/seisj.27.3	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	○	—	—	—	—	○	○	○	○
JS19	滝埜昌彦	2014	データ処理手法及び多変量解析によるLC/MS分析の視覚化	分析化学 63(6): 497-513 https://doi.org/10.2116/bunsekikagaku.63.497	日本語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS20	樋口康一	2014	アシベンゾラルSメチル剤の株元かん注処理によるイチゴ炭疽病の防除効果	九州病害虫研究会報 60: 24-29 https://doi.org/10.4241/kyubyoku.60.24	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
—A	佐山充, 大木健広	2015	講演要旨 抵抗性誘導剤の種子処理がコムギ縞萎縮ウイルス媒介者 <i>Polymyxa graminis</i> の感染に及ぼす影響	北日本病害虫研究会報 2015(66): 163 https://doi.org/10.11455/kitanihon.2015.66_160	日本語	要旨	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS21	青木元彦	2015	北海道におけるイミダクロプリド抵抗性イネドロオウムシ個体群の発生と有効薬剤の検索	北日本病害虫研究会報 2015(66): 110-115 https://doi.org/10.11455/kitanihon.2015.66_110	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○

				0.11455/kitanihon.2015.66_110																		
JS22	松本憲悟等	2016	イネごま葉枯病圃場抵抗性検定法の開発	育種学研究 18(3): 103-111 https://doi.org/10.1270/jsbbr.18.103	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
—A	西村幸芳等	2017	平成 29 年度日本植物病理学会大会講演要旨 各種プラントアクチベーターによる キュウリ苗でのズッキーニ黄斑モザイクウイルス抑制効果	日本植物病理学会報 83(3): 218 https://doi.org/10.3186/jphytopath.83.163	日本語	要旨	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS23	比企(太田)麻子, 谷隆行	2017	LC-MS/MS による農産物中の迅速な残留農薬一斉分析法の妥当性評価	日本食品化学学会誌 24(3): 105-113 https://doi.org/10.18891/jifcs.24.3_105	日本語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS24	黒田智久等	2017	水稻品種「わたぼうし」における穂いもち発病予測モデル	北日本病害虫研究会報 2017(68): 28-32 https://doi.org/10.11455/kitanihon.2017.68_28	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS25	Ono A et al.	2018	Evaluation of Necessity of 1-year Toxicity Study in Dogs - development of the New Tiered Approach for Toxicity Studies of Pesticide Considering Species Difference in “toxicity profile” and “toxicity dose-response”	Food Safety 6(3): 109-117 https://doi.org/10.14252/foodsafetyfscj.2017023	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS26 ^B	Kimura N and Fukuchi A	2018	MBI-D resistance management of <i>Pyricularia oryzae</i> using an application program incorporating benomyl	J. Pestic. Sci. 43(1): 33-35 https://doi.org/10.1584/jpestics.D17-064	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○

JS27	Kimura N and Fukuchi A	2018	Management of melanin biosynthesis dehydratase inhibitor (MBI-D)-resistance in <i>Pyricularia oryzae</i> using a non-MBI-D fungicidal application program for nursery boxes and a diclocymet and ferimzone mixture for field foliar applications	J. Pestic. Sci. 43(4): 287-292 https://doi.org/10.1584/jpestics.D18-023	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS28	Kawakami D et al.	2019	Induction of resistance to diseases in plant by aerial ultrasound irradiation	J. Pestic. Sci. 44(1): 41-47 https://doi.org/10.1584/jpestics.D18-064	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS29	萩原寛之	2019	新規殺菌剤トルプロカルブの作用機作と生物活性	日本農薬学会誌 44(2): 186-192 https://doi.org/10.1584/jpestics.W19-63	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
—A	山崎淳紀等	2019	平成 31 年度日本植物病理学会大会講演要旨 数種抵抗性誘導剤の土壌灌注処理によるナスおよびピーマンうどんこ病に対する防除効果	日本植物病理学会報 85 巻 3 号 250 https://doi.org/10.3186/jiphytopath.85.224	日本語	要旨	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS30	Arie T	2019	<i>Fusarium</i> diseases of cultivated plants, control, diagnosis, and molecular and genetic studies	J. Pestic. Sci. 44(4): 275-281 https://doi.org/10.1584/jpestics.J19-03	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS31	古閑豊和, 宮脇崇	2020	迅速前処理カートリッジを用いた環境水中有機汚染物質のターゲットスクリーニング法の開発 (2) —LC/MS/MS への応用—	分析化学 69(3): 121-134 https://doi.org/10.2116/bunsekikagaku.69.121	日本語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS32	Peter Lyod P Sabes et al.	2020	Effect of Increased Silicon Content of Paddy Rice on Sheath Blight Development	Japan Agricultural Research Quarterly 54(2): 145-151	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○

			through Carbonized Rice Husk Application	https://doi.org/10.6090/jarq.54.145																	
JS33	腰塚昭春等	2020	SPME-GC-MS/MS、LC-MS/MS を用いた農薬類の迅速な一斉分析法の開発	水道協会雑誌 89(4): 2-13 https://doi.org/10.34566/jwwa.89.4_2	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS34	Choi G et al.	2021	The impact of agricultural activities on habitat use by the Wood Sandpiper and Common Greenshank in rice fields	Ornithological Science 20(1): 27-37 https://doi.org/10.2326/osj.20.27	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS35	仲下英雄	2021	植物生理機能を制御する農薬の作用機構に関する研究	日本農薬学会誌 46(2): 75-76 https://doi.org/10.1584/jpestics.W21-26	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS36	大門拓実, 高橋邦彦	2021	LC-MS/MS を用いた枝豆中の残留農薬迅速一斉分析法における希釈の有用性	食品衛生学雑誌 62(4): 133-137 https://doi.org/10.3358/shokueishi.62.133	日本語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS37	Nakashita H	2021	Studies on regulation of plant physiology by pesticides	J. Pestic. Sci. 46(4): 393-398 https://doi.org/10.1584/jpestics.J21-06	英語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS38	古川浩司等	2022	トリガーMRM法を用いた四重極 LC-MS/MS による水道水中の農薬スクリーニング分析法の検討	環境科学会誌 35(2): 67-82 https://doi.org/10.11353/esej.35.34	日本語	原著	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS39	中村英光	2022	植物ホルモンによる植物保護の新展開	日本農薬学会誌 47(2): 104-108 https://doi.org/10.1584/jpestics.W22-30	日本語	原著	○	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○
JS40	山口 賢人等	2022	抵抗性誘導剤を内包したナノ粒子の開発	日本農薬学会誌 47(2): 65-68 https://doi.org/10.1584/jpestics.W22-22	日本語	原著	○	—	○	—	—	—	—	—	—	—	—	○	○	○	○

チアジニルの 13 の日英名で検索し、ヒットした論文を「○」で示す。ヒットした論文数を検索式下の括弧中に示す。学会要旨等の論文については調査対象外であるため論文番号の付与は行わず、表を見やすくするために網掛けした。
検索式

-
- 1 : チアジニル
2 : tiadinil
3 : ブイゲット®
4 : 3'-クロロ-4,4'-ジメチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサニリド
5 : *N*-(3-クロロ-4-メチルフェニル)-4-メチル-1,2,3-チアジアゾール-5-カルボキサミド
6 : 3'-chloro-4,4'-dimethyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxanilide
7 : *N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide
8 : 223580-51-6
9 : NNF-9850
10 : NNF-1081
11 : NNF-1083
12 : SV-89601
13 : ブイゲットパディート粒剤
14 : チアジニル OR tiadinil
15 : チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット®
16 : チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット® OR *N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide
17 : チアジニル OR tiadinil OR ブイゲット® OR *N*-(3-chloro-4-methylphenyl)-4-methyl-1,2,3-thiadiazole-5-carboxamide OR 223580-51-6
A : J-Stage では学会名と抄録全体の頁数（開始ページ-最終ページ）が記載されるが、該当する論文の著者、論文表題、ページを記載した。
B : J-Stage では日本語で記載されるが、原著に合わせて英語表記に修正した。
C : 各論文の区別

Supplement 3. Web of Science (Core Collection) と J-Stage で得られた結果の統合と評価目的との適合性評価 (第 1 段階) の結果及び判断理由

	文献番号	著者	出版年	論文表題	掲載誌名、巻(号): ページ、DOI Link	適合性評価の結果	適合性評価の判断理由
1	JS1	佐々木 豊等	2007	仮想空間におけるイネいもち病徴の検知手法の検討	農業情報研究 16(2): 60-65 https://doi.org/10.3173/air.16.60	適合性なし	ドライラボの論文
2	JS2	Yasuda M	2007	Regulation mechanisms of systemic acquired resistance induced by plant activators	J. Pestic. Sci. 32(3): 281-282 https://doi.org/10.1584/jpestics.32.281	適合性なし	薬効に関する論文
3	JS3	岩本 豊, 長田 靖之	2007	MBI-D 剤に替わるイネいもち病育苗箱処理剤の選定	関西病虫害研究会報 49: 19-21 https://doi.org/10.4165/kappas.49.19	適合性なし	薬効に関する論文
4	JS4	安田美智子	2007	植物の全身獲得抵抗性誘導剤の作用機構に関する研究	J. Pestic. Sci. 32(3): 291-296 https://doi.org/10.1584/jpestics.32.291	適合性なし	薬効に関する論文
5	JS5	鳴坂義弘等	2008	ハクサイ炭疽病および黒すす病に対するプラントアクティベーターの効果と影響	J. Pestic. Sci. 33(2): 196-200 https://doi.org/10.1584/jpestics.33.196	適合性なし	薬効に関する論文
6	WOS1	Fan ZJ et al.	2009	Synthesis and Biological Activity Evaluation of 1,2,3-Thiadiazole Derivatives as Potential Elicitors with Highly Systemic Acquired Resistance	J. Agric. Food Chem. 57(10):4279-4286 https://doi.org/10.1021/jf8031364	適合性なし	薬効に関する論文
7	JS6	大平辰朗	2009	様々な情報に対する植物の応答—信号化学物質の機能について—	におい・かおり環境学会誌 40(3): 140-151 https://doi.org/10.2171/jao.40.140	適合性なし	薬効に関する論文
8	JS7	安田美智子, 仲下英雄	2009	植物の全身獲得抵抗性を制御する植物ホルモネットワーク	化学と生物 47(8): 553-559 https://doi.org/10.1271/kagaku-to-seibutsu.47.553	適合性なし	薬効に関する論文
9	JS8	仲下英雄等	2009	全身獲得抵抗性の環境ストレスによる抑制機構—抵抗性誘導の効果的利用技術の開発に向けて	J. Pestic. Sci. 34(4): 350-353 https://doi.org/10.1584/jpestics.34.350	適合性なし	薬効に関する論文
10	JS9	高辻博志	2009	イネの誘導抵抗性の分子機構—サリチル酸シグナル伝達経路の解明とその利用に向けて	J. Pestic. Sci. 34(4): 330-334 https://doi.org/10.1584/jpestics.34.330	適合性なし	薬効に関する論文
11	JS10	樋口康一, 尾松直志	2010	チアジニル粒剤のイチゴ炭疽病 (<i>Glomerella cingulata</i>) に対する防除効果	九州病虫害研究会報 56: 9-12 https://doi.org/10.4241/kyubyocho.56.9	適合性なし	薬効に関する論文
12	WOS2 JS11	Yoshida K et al.	2010	Induction of Disease Resistance in Tea (<i>Camellia sinensis</i> L.) by Plant Activators	Japan Agricultural Research Quarterly 44(4): 391-398 https://doi.org/10.6090/jarq.44.391	適合性なし	薬効に関する論文
13	JS12	Takatsuji H et al.	2010	Salicylic Acid Signaling Pathway in Rice and the Potential Applications of Its Regulators	Japan Agricultural Research Quarterly 44(3): 217-223 https://doi.org/10.6090/jarq.44.217	適合性なし	薬効に関する論文
14	JS13	鳴坂義弘等	2010	プラントアクティベーターによる植物免疫の活性化と化学遺伝学への利用	化学と生物 48(10): 706-712 https://doi.org/10.1271/kagaku-to-seibutsu.48.706	適合性なし	薬効に関する論文
15	WOS3 ^A JS14	児玉浩宜	2011	日本農薬の原体製造におけるグリーンケミストリー	J. Pestic. Sci. 36(4): 534-538 https://doi.org/10.1584/jpestics.W11-27	適合性なし	開発に関する論文
16	WOS4	Shimono M et al.	2012	Rice WRKY45 plays important roles in fungal and bacterial disease resistance	Mol. Plant Pathol. 13(1):83-94 https://doi.org/10.1111/j.1364-3703.2011.00732.x	適合性なし	薬効に関する論文
17	WOS5	Noutoshi Y et al.	2012	Isolation and characterization of the plant immune-priming compounds Imprimatin B3 and -B4, potentiators of disease resistance in Arabidopsis thaliana	Plant Signal. Behav. 7(12):1526-1528 https://doi.org/10.4161/psb.22138	適合性なし	薬効に関する論文

18	WOS6	Noutoshi Y et al.	2012	Novel Plant Immune-Priming Compounds Identified via High-Throughput Chemical Screening Target Salicylic Acid Glucosyltransferases in Arabidopsis	Plant Cell 24(9):3795-3804 https://doi.org/10.1105/tpc.112.098343	適合性 なし	薬効に関する論文
19	WOS7	Maeda T and Ishiwari H	2012	Tiadinil, a plant activator of systemic acquired resistance, boosts the production of herbivore-induced plant volatiles that attract the predatory mite Neoseiulus womersleyi in the tea plant Camellia sinensis	Exp. Appl. Acarol. 58(3):247-258 https://doi.org/10.1007/s10493-012-9577-2	適合性 なし	薬効に関する論文
20	JS15	芳野未央子等	2012	キュウリに病害抵抗性を誘導する熱ショック処理方法の改良と処理装置の試作	園芸学研究 11(1): 121-126 https://doi.org/10.2503/hrj.11.121	適合性 なし	当該農薬と関係しない論文
21	WOS8	Pye MF et al.	2013	Induced resistance in tomato by SAR activators during predisposing salinity stress	Front. Plant Sci. 4 (Article no 116) https://doi.org/10.3389/fpls.2013.00116	適合性 なし	薬効に関する論文
22	JS16	藤井直哉, 佐山玲	2013	水稻苗の葉いもちに対するトリシクラゾール水和剤の低濃度処理及び各種箱施用剤の防除効果	北日本病害虫研究会報 2013(64): 11-14 https://doi.org/10.11455/kita-nihon.2013.64_11	適合性 なし	薬効に関する論文
23	WOS9	Chen XY et al.	2014	Determination of Tiadinil and Its Metabolite in Flue-Cured Tobacco	J. Chromatogr. Sci. 52(7):624-628 https://doi.org/10.1093/chromsci/bmt090	適合性 なし	分析法に関する論文
24	JS17	廣岡卓, 石井英夫	2014	植物病害の薬剤防除	日本植物病理学会報 80(100th Anniversary 号): S172-S178 https://doi.org/10.3186/jjphytopath.80.S172	適合性 なし	薬効に関する論文
25	JS18	小林憲弘等	2014	水道水中の農薬類の LC/MS/MS 一斉分析法の開発	環境科学会誌 27(1): 3-19 https://doi.org/10.11353/seisj.27.3	適合性 なし	分析法に関する論文
26	JS19	滝埜昌彦	2014	データ処理手法及び多変量解析による LC/MS 分析の視覚化	分析化学 63(6): 497-513 https://doi.org/10.2116/buns-ekikagaku.63.497	適合性 なし	分析法に関する論文
27	JS20	樋口康一	2014	アシベンゾラル S メチル剤の株元かん注処理によるイチゴ炭疽病の防除効果	九州病害虫研究会報 60: 24-29 https://doi.org/10.4241/kyub-yochu.60.24	適合性 なし	当該農薬と関係しない論文
28	JS21	青木元彦	2015	北海道におけるイミダクロプリド抵抗性イネドロオイムシ個体群の発生と有効薬剤の検索	北日本病害虫研究会報 2015(66): 110-115 https://doi.org/10.11455/kita-nihon.2015.66_110	適合性 なし	薬効に関する論文
29	JS22	松本憲悟等	2016	イネごま葉枯病圃場抵抗性検定法の開発	育種学研究 18(3): 103-111 https://doi.org/10.1270/jsbbr.18.103	適合性 なし	当該農薬と関係しない論文
30	WOS10	Chang K et al.	2017	The discovery of new scaffold of plant activators: From salicylic acid to benzotriazole	Chin. Chem. Lett. 28(4):919-926 https://doi.org/10.1016/j.ccl.2017.02.004	適合性 なし	薬効に関する論文
31	JS23	比企(太田)麻子, 谷隆行	2017	LC-MS/MS による農産物中の迅速な残留農薬一斉分析法の妥当性評価	日本食品化学学会誌 24(3): 105-113 https://doi.org/10.18891/jifcs.24.3_105	適合性 なし	分析法に関する論文
32	JS24	黒田智久等	2017	水稻品種「わたぼうし」における穂いもち発病予測モデル	北日本病害虫研究会報 2017(68): 28-32 https://doi.org/10.11455/kita-nihon.2017.68_28	適合性 なし	ドライラボの論文
33	WOS11	Kouzai Y et al.	2018	Salicylic acid-dependent immunity contributes to resistance against Rhizoctonia solani, a necrotrophic fungal agent of sheath blight, in rice and Brachypodium distachyon	New Phytol. 217(2):771-783 https://doi.org/10.1111/nph.14849	適合性 なし	薬効に関する論文
34	JS25	Ono A et al.	2018	Evaluation of Necessity of 1-year Toxicity Study in Dogs - development of the New Tiered Approach for Toxicity Studies of Pesticide Considering Species	Food Safety 6(3): 109-117 https://doi.org/10.14252/foodsafetyfscj.2017023	適合性 なし	新規データが提示されていない論文

				Difference in "toxicity profile" and "toxicity dose-response"			
35	WOS12 JS26 ^B	Kimura N and Fukuchi A	2018	MBI-D resistance management of <i>Pyricularia oryzae</i> using an application program incorporating benomyl	J. Pestic. Sci. 43(1): 33-35 https://doi.org/10.1584/jpestics.D17-064	適合性なし	薬効に関する論文
36	WOS13	Kefialew Y et al.	2018	Direct antifungal activity of tiadinil, a systemic acquired resistance inducer, and thymol formulations on <i>Stagonosporopsis citrulli</i> and control of watermelon gummy stem blight	J. Gen. Plant Pathol. 84(4):284-295 https://doi.org/10.1007/s10327-018-0783-6	適合性なし	薬効に関する論文
37	JS27	Kimura N and Fukuchi A	2018	Management of melanin biosynthesis dehydratase inhibitor (MBI-D)-resistance in <i>Pyricularia oryzae</i> using a non-MBI-D fungicidal application program for nursery boxes and a diclocymet and ferimzone mixture for field foliar applications	J. Pestic. Sci. 43(4): 287-292 https://doi.org/10.1584/jpestics.D18-023	適合性なし	薬効に関する論文
38	JS28	Kawakami D et al.	2019	Induction of resistance to diseases in plant by aerial ultrasound irradiation	J. Pestic. Sci. 44(1): 41-47 https://doi.org/10.1584/jpestics.D18-064	適合性なし	当該農薬と関係しない論文
39	JS29	萩原寛之	2019	新規殺菌剤トルプロカルブの作用機作と生物活性	日本農薬学会誌 44(2): 186-192 https://doi.org/10.1584/jpestics.W19-63	適合性なし	当該農薬と関係しない論文
40	JS30	Arie T	2019	<i>Fusarium</i> diseases of cultivated plants, control, diagnosis, and molecular and genetic studies	J. Pestic. Sci. 44(4): 275-281 https://doi.org/10.1584/jpestics.J19-03	適合性なし	薬効に関する論文
41	JS31	古閑豊和, 宮脇崇	2020	迅速前処理カートリッジを用いた環境水中有機汚染物質のターゲットスクリーニング法の開発 (2) -LC/MS/MS への応用-	分析化学 69(3): 121-134 https://doi.org/10.2116/bunsekikagaku.69.121	適合性なし	分析法に関する論文
42	JS32	Peter_Lyod P Sabes et al.	2020	Effect of Increased Silicon Content of Paddy Rice on Sheath Blight Development through Carbonized Rice Husk Application	Japan Agricultural Research Quarterly 54(2): 145-151 https://doi.org/10.6090/jarq.54.145	適合性なし	薬効に関する論文
43	JS33	腰塚昭春等	2020	SPME-GC-MS/MS、LC-MS/MS を用いた農薬類の迅速な一斉分析法の開発	水道協会雑誌 89(4): 2-13 https://doi.org/10.34566/jwwa.89.4_2	適合性なし	分析法に関する論文
44	JS34	Choi G et al.	2021	The impact of agricultural activities on habitat use by the Wood Sandpiper and Common Greenshank in rice fields	Ornithological Science 20(1): 27-37 https://doi.org/10.2326/osj.20.27	適合性なし	当該農薬と関係しない論文
45	JS35	仲下英雄	2021	植物生理機能を制御する農薬の作用機構に関する研究	日本農薬学会誌 46(2): 75-76 https://doi.org/10.1584/jpestics.W21-26	適合性なし	薬効に関する論文
46	JS36	大門拓実, 高橋邦彦	2021	LC-MS/MS を用いた枝豆中の残留農薬迅速一斉分析法における希釈の有用性	食品衛生学雑誌 62(4): 133-137 https://doi.org/10.3358/shokueishi.62.133	適合性なし	分析法に関する論文
47	JS37	Nakashita H	2021	Studies on regulation of plant physiology by pesticides	J. Pestic. Sci. 46(4): 393-398 https://doi.org/10.1584/jpestics.J21-06	適合性なし	薬効に関する論文
48	JS38	古川浩司等	2022	トリガーMRM法を用いた四重極 LC-MS/MS による水道水中の農薬スクリーニング分析法の検討	環境科学会誌 35(2): 67-82 https://doi.org/10.11353/sesj.35.34	適合性なし	分析法に関する論文
49	JS39	中村英光	2022	植物ホルモンによる植物保護の新展開	日本農薬学会誌 47(2): 104-108 https://doi.org/10.1584/jpestics.W22-30	適合性なし	薬効に関する論文
50	JS40	山口賢人等	2022	抵抗性誘導剤を内包したナノ粒子の開発	日本農薬学会誌 47(2):65-68 https://doi.org/10.1584/jpestics.W22-22	適合性なし	薬効に関する論文

A : Web of Science Coe Collection では英語で記載されるが、原著に合わせて日本語表記に修正した。

B : J-Stage では日本語で記載されるが、原著に合わせて英語表記に修正した。